

第1章

政党システムの変質 ——2013年総選挙後の変化——

中村 正志

要約：

本稿では、「マハティール後」の政治の基調をなしている政党システムの揺らぎを扱う。2008年総選挙での野党躍進のあと、国民戦線と人民連盟の二大政党連合制が成立したかにみえたが、それは定着しなかった。2013年総選挙後に生じた根本的な政策志向の相違の表面化（ハッド刑問題）と政党間の主導権争い（スランゴール州首相人事）の結果、人民連盟は解体した。その過程でPASの内紛が深刻化し、中央役員選挙に敗れた進歩派指導者による新党結成に至る。新党アマナとDAP、PKRによって野党連合・希望連盟が再生されたが、それは政党としてはDAP、民族的にはノン・ブミプトラの議員のプレゼンスが際立つものへと変質した。一方、進歩派が去ったPASは、ナジブ首相のスキャンダルにより内紛を抱えるUMNOに接近した。政党システムがこのように変質するなかで、エスノナショナリズムが再び政治の主要な対立軸になりつつある。なお、本稿はあくまで中間報告である。本研究会の最終成果は、2017年度に研究双書シリーズの一冊として刊行される予定である。

キーワード： 政党システム， 一党優位制， 二大政党連合制

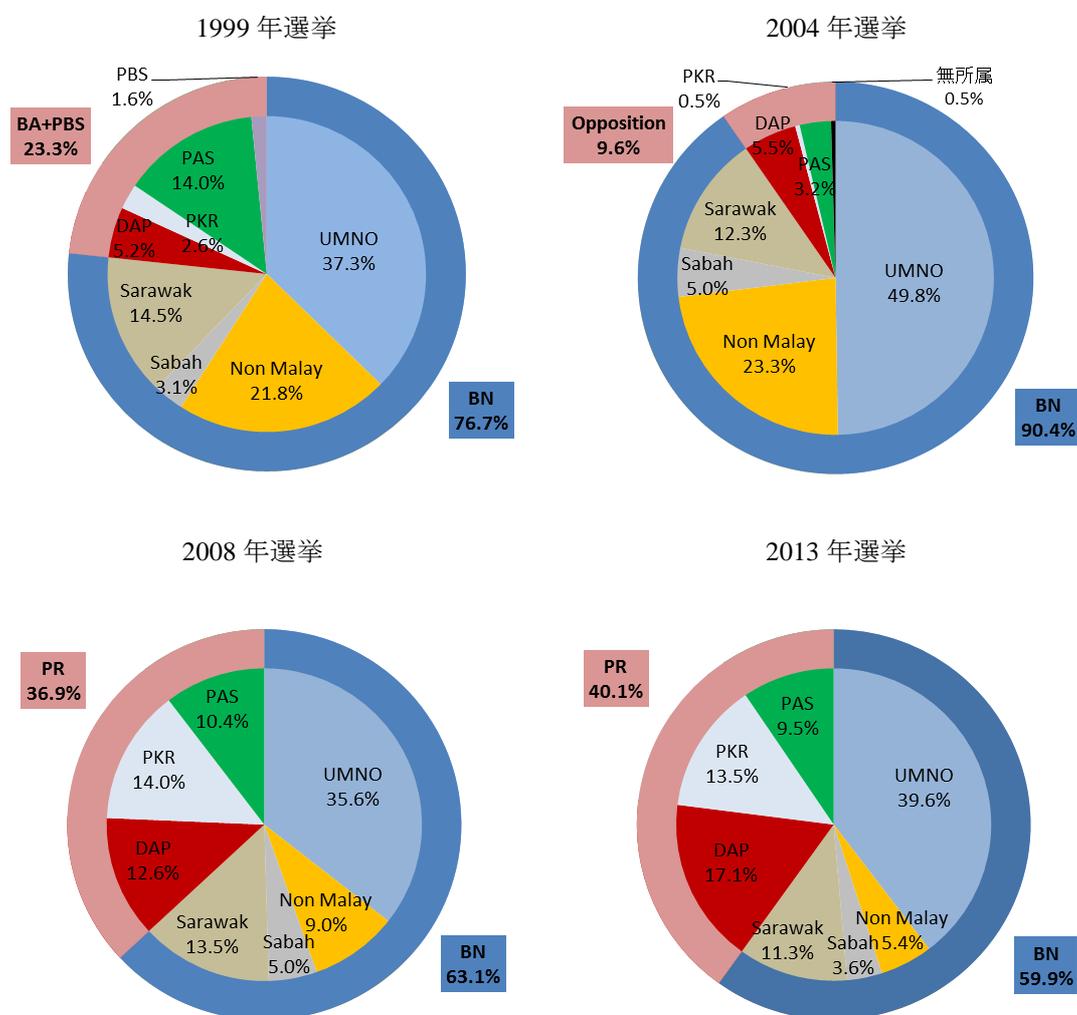
はじめに

マレーシアでは独立以来、統一マレー人国民組織（United Malays National Organisation: UMNO）を中核とする与党連合による統治が続いてきた。ところが2008年選挙での野党躍進により、一党（連合）優位制が変質し、与党連合・国民戦線（Barisan Nasional）と野党連合・人民連盟（Pakatan Rakyat）が並び立つ二大政党連合制が成立し定着したかにみえた。だが2013年総選挙以降、野党間の関係が急速に悪化し、政党間関係が流動化し始めた。今回の中間報告では、2013年総選挙後に焦点を絞って政党システムがどのように変わったかを記述する。

最初に、連邦下院における政党別議席占有率の推移を簡単に振り返っておこう（図1）。マハティール・モハマド（Mahathir Mohamad）政権下での最後の総選挙となった1999年選挙では、与党連合・国民戦線としては76.7%の議席を獲得したが、アンワル・イブラヒム（Anwar Ibrahim）副首相解任・逮捕の影響でUMNOは苦戦し、同党の議席が与党連合議席

の半数を初めて割り込んだ。一方野党側は、アンワル元副首相の支持者らが結成した新党・国民公正党（Parti Keadilan Nasional）を仲立ちに、華人を支持母体とする民主行動党（Democratic Action Party: DAP）とイスラーム主義政党の汎マレーシア・イスラーム党（Parti Islam Se-Malaysia: PAS）が初めて直接手を結び、左派の小政党・マレーシア人民党（Parti Rakyat Malaysia: PRM）も交えて政党連合・オルタナティブ戦線（Barisan Alternatif）を結成した。オルタナティブ戦線は、当時は野党だったサバ州の地方政党・サバ統一党（Parti Bersatu Sabah: PBS）とも連携した。その議席占有率は、PBS とあわせても 23.3%に過ぎなかったが、当時マレーシア国内のメディアでは、オルタナティブ戦線が国民戦線の対抗勢力として定着、拡大し、二大政党連合制に発展することへの期待感が有識者によって語られていた。

図 1 政党別下院議席占有率の推移（1999 年～2013 年）



（出所）マレーシア選挙委員会報告書（ECM 2002; 2006; 2009）ならびに同ウェブサイト（www.spr.gov.my）のデータをもとに作成。

だが、この野党連合は定着しなかった。2001年には宗教政策をめぐる DAP と PAS の対立が激化し、DAP がオルタナティブ戦線を離脱してしまう。2003年に国民公正党と PRM が合併して人民公正党 (Parti Keadilan Rakyat: PKR) となり、PKR と PAS の連携は続いたが、DAP の抜けたオルタナティブ戦線の活動は低調で存在感がなかった。マハティールの後継者アブドラ・アフマド・バダウィ (Abdullah Ahmad Badawi) の指揮下で実施された 2004 年総選挙では、1999 年に PAS と PKR に流れたマレー人票が UMNO に戻り、国民戦線の議席占有率が 9 割を超えた。

しかし、再び出現した国民戦線の一党優位制もまた不確かなものであった。2008 年総選挙では、DAP、PAS、PKR の主要 3 野党がそれぞれ得票を伸ばし、与党連合の議席占有率が初めて 3 分の 2 を割り込んだ。3 野党は選挙後に人民連盟を結成して協力を強化し、2013 年総選挙では政権交代を目標に掲げて統一公約を策定した。2013 年選挙での政権交代は実現できなかったが、人民連盟は得票率で国民戦線を上回った。

ここまでの流れを短くいいなおすとすれば、1999 年総選挙までが安定した一党 (連合) 優位制の時代、1999 年選挙から 2001 年の DAP の野党連合離脱までが二大政党連合制の萌芽期、その後 2008 年総選挙までが一党優位制への揺り戻しの時期、2008 年総選挙以降が二大政党連合制の確立期といえそうである。

ただし、マレーシアの政党システムが二大政党連合制の定着に向かって進んでいると断言するのは早計に過ぎる。2013 年総選挙後にまたしても PAS と DAP が宗教政策などをめぐって対立し、2015 年 6 月には人民連盟が解体してしまった。その後はやくも 9 月には野党連合が再建されたが、それは規模、性質ともに人民連盟とは異なるものになっている。

この中間報告では、2013 年総選挙後の野党間関係の変質に焦点を絞って、その過程を詳しくみていくことにする。ポスト・マハティール期における政党システムの変容を把握するためには、この作業が不可欠と考えられるからである。ごく最近のできごとであるため、依拠する文献は新聞やインターネット・メディアの記事が中心である。おもに用いたのは、日刊紙の *The Star* とそのオンライン版、同じく日刊紙の *New Straits Times (NST)*、インターネット・メディアの *The Malaysian Insider (TMI)*、国営通信社ブルナマのウェブ配信記事 (*Bernama*) である。ほかにもマレー語日刊紙等を用いているが、文中では略記してある。紙名は章末の参考文献リストで確認していただきたい。

第 1 節 PAS がクランタン州でのハッド刑施行に向けて始動 (2013 年 10 月～14 年 5 月)

人民連盟の内部対立の引き金となり、解体の根源的理由ともなったのがハッドの問題である。ハッド¹とは、「コーランに処罰の規定された犯罪」(嶋田 1982a: 300) であり、姦通

¹ 複数形はフドウド (hudud)。マレーシアでは、ハッド刑のことを hudud と呼ぶのが一般

と姦通についての中傷、飲酒、窃盗、追いはぎが該当する。これらの犯罪に対し、既婚者の姦通罪なら石打ちの刑、窃盗罪なら手足の切断などと処罰が決められている。この刑罰をここではハッド刑と呼ぶことにする。1970年代以降、イスラーム世界においてシャリーア（イスラーム法）の実施を求める動きが強まるなかで、ハッド刑を施行することの意義が強調されるようになった（遠峰 1982: 168）。

PAS にとって、イスラーム国家の樹立、すなわちシャリーアにもとづく統治体制の確立は、結党以来の党是である。1990年総選挙でクランタン州政権を奪取すると、PAS は同州においてハッド刑を実施するための法案を上程し、州議会がこれを可決した（NST, November 26, 1993）。この州法（1993年シャリーア刑法 II [Syariah Criminal Code II 1993]）は公布されたものの、施行には至らなかった。連邦憲法（第 9 付則）において、刑法の立法権は連邦政府の管轄事項と定められているためである。

ハッド刑を実施するための法律は存在するが施行できないという状況は、こんにちまで続いている。PAS は長らく、現状維持を許容しているようにみえた。とりわけ 2008 年総選挙以降は、ハッド刑実施に強く反対する DAP への配慮を伺わせる場面が散見された。次の総選挙の半年前にあたる 2012 年 11 月の党総会では、アブドゥル・ハディ・アワン（Abdul Hadi Awang, 以下、ハディ）総裁が、PAS と DAP はハッド刑の施行について「合意しないことに合意している」と述べた。この発言は、前日のウラマー（宗教指導者）評議会総会でハルン・タイプ（Harun Taib）委員長が、PAS が議会の過半数を制したらハッド刑を含むシャリーアを実施することで人民連盟は合意していると述べたことへの対応である（Star, November 16-17, 2012）。ハディ総裁自身もウラマーであるが、DAP との関係や選挙への影響を慮ってハッド刑問題の争点化を回避しようとしたのだと考えられる。2013 年総選挙の直前には、最高位のウラマーのひとりであるハロン・ディン（Haron Din）が、人民連盟が連邦の政権を奪取したら DAP が反対しようとハッド刑を導入すると発言し、DAP 幹部が反発するという事態がおきた。だがこのときも、最高指導者であるハディ総裁らが静観したために、この問題が選挙の重大争点になることはなかった。

ところが、2013 年 5 月の総選挙から半年ほどが過ぎると、状況は大きく変わっていく。決定的な転機になったのが、隣国ブルネイの動きである。2013 年 10 月 22 日にブルネイのハサナル・ボルキア国王は、6 カ月以内にハッド刑を実施すると発表した。そして実際に、2014 年 4 月 22 日にハッド刑実施のための法律が施行された²。ブルネイの動きは、クランタン州政府高官を刺激した。州首相のアフマド・ヤコブ（Ahmad Yacob）は、ブルネイの発表を受けてハッド刑の実施に対する自信を深めたと述べ、まもなく州副首相のモハマド・

的である。

² ブルネイのハッド刑法草案起草のアドバイザーを務めたマレーシアのアブドゥル・ハミド・モハマド（Abdul Hamid Mohamad）元最高裁長官によれば、ブルネイ政府はハッド刑施行のために 30 年を費やして準備してきたという（Bernama, January 7, February 11, 2014）。

アマル・ニック・アブドラ (Mohd Amar Nik Abdullah) が、ハッド刑に関する州の技術委員会の初会合を年明け早々に開催すると発表した (NST, October 28, November 7, 2013)。この委員会は、形式的には 2 年以上前に発足していたが事実上休眠状態にあった。ところが上記の州副首相発言を境に、実際にハッド刑実施に向けた準備を進めることになる。

クランタン州政府の動きを、今回は党中央が支持した。2013 年 11 月の党総会期間中にハディ総裁は、クランタン州政府のハッド刑実施計画を党が総力を挙げて支援することを承認し、DAP の意向にかかわらずハッド刑を実施する、UMNO と協議する用意があるなどと述べた (NST, November 23, 2013; Bernama, November 24, 2013)。これ以降ハディ総裁は、DAP と対立し、ライバルの UMNO と協調してでもハッド刑の実施をめざすという態度をはっきり示すようになっていく。一方、党の宗教上の最高権威である「精神的指導者」のニック・アジズ (Nik Aziz Nik Mat) は、UMNO との政治協力には反対の立場を貫いてきた。ところが彼もクランタン州でのハッド刑実施には強い意欲を見せ、そのための連邦議会での立法措置 (後述) について、すべてのムスリム議員が賛成すべきだと発言した (NST, April 12, 2014)。

2014 年の 4 月以降、PAS はクランタン州でのハッド刑実施のための活動を本格化させる。4 月 2 日にアフマド州首相が、PAS は 1993 年シャリーア刑法 II の施行に向けて連邦議会で議員立法をめざすと発表した。

1993 年シャリーア刑法 II を施行するためには憲法改正が必要というのが、これまでの定説であった。UMNO 長老のトゥンク・ラザレイ・ハムザ元財務相は、一時 UMNO を離れて 1990 年の PAS によるクランタン州政権奪回に力を貸した過去をもつ人物だが、今回の騒動について、連邦憲法の規定により PAS はハッド刑を実施できないと述べている (Bernama, November 18, 2013)。連邦憲法の改正には 3 分の 2 以上の賛成が必要であり、イスラーム教徒の議員の数は与野党あわせても定数の 3 分の 2 には満たないため、ハッド刑の実施は実現しないと考えられてきた。

ところが、クランタンのモハマド・アマル州副首相らは、今回の議員立法は憲法改正ではないので過半数の支持を得ればよく、すべてのムスリム議員が賛成すれば可決できると主張した (NST, April 17, 2014)。その論拠はこの時点では示されなかったが、のちにあきらかにされたところによると、かれらは連邦憲法 76 条 A (1) を根拠に、通常連邦議会法によって州の立法権を拡大できると考えていたのである³ (NST, October 21, 2014)。モハマド・アマル州副首相は、連邦議会での議員立法は早ければ 2 カ月後の 6 月、それがだめでも 12 月には実施すると述べた (NST, April 10, 2014)。

またモハマド・アマル州副首相は、ハッド刑実施のための技術委員会の委員長でもあり、手足の切断は外科医が行うと述べた (NST, April 24, 2014)。この発言に全国医師会の会長が

³ 憲法 76 条 A (1) は、連邦議会が自身の管轄とされる事項を州議会に移管する権限をもつことを定めた条項である。

反発すると、四肢切断はそのための専門家が行うとの方針を技術委員会が示し、イスラーム法の運用を司る州のムフティー⁴がこれを追認した。このようにクランタン州政府は、ハッド刑実施に向けて、法律の整備だけでなく行政的な準備にも着手したのである

PAS がハッド刑実施のための具体的な措置をとりはじめたことは、政党間の関係に変化をもたらすことになった。

野党連合の人民連盟では、ハッド刑導入に一貫して反対してきた DAP が、このときも PAS の行動を強く批判した。最有力指導者であるリム・ガンエン党書記長（ペナン州首相）は、DAP はハッド刑実施に反対であり、ゆえに人民連盟は合意していない、PAS の行動は人民連盟を解体のリスクにさらしているなどと繰り返し主張した（Lim 2014a, b, c, d）。

一方、エスノナショナリズムの点で PAS と DAP の中間に位置する PKR の指導者は、この時点ではクランタン州でのハッド刑実施の是非について曖昧な物言いに終始した。というのも、PKR は DAP との協調を重視する一方で、ムスリムの党指導者は、「ムスリムとしてイスラーム法を拒否できない」（アンワル・イブラヒム発言。NST, April 17, 2014）ためである。実質的な指導者である党顧問のアンワル・イブラヒムは、PAS がハッド刑実施を追求するのは自由だが PKR や DAP の支持をあてにするなど述べ、他の幹部は、民衆のハッド刑への理解が進んでいないから実施のプライオリティは高くないなどと発言した（NST, April 17, 26, 2014）。

与党連合の国民戦線の側でも、華人・インド人が主体の政党はハッド刑実施に強く反対した。4月17日に華人政党の MCA とともにグラカン、SUPP、LDP が共同声明を発表し、PAS が上程をもくろむ議員立法への反対を表明した。その10日後には、インド人政党 MIC のパラニヴェル総裁もハッド刑実施への反対を表明している（NST, April 18, 28, 2014）。

一方、マレー人政党の UMNO は PAS に手を貸す姿勢を見せる。PAS が連邦議会での議員立法をめざす方針を示すと、まもなく UMNO のクランタン州組織のトップであるムスタパ・モハマト（国際貿易産業相）が、同州の UMNO 所属議員はこれを支持すると発言した（NST, April 7, 2014）。前述のとおり非マレー系4党がハッド刑に反対する共同声明を発表すると、同じ日にムヒディン・ヤシン UMNO 副総裁（副首相）は、ムスリムはハッド刑を拒否できないとし、まずは PAS の提案を精査することが必要であり、しかるべきときが来たら国民戦線としての立場を表明すると述べた（NST, April 18, 2014）。4月24日にはナジブ総裁（首相）が、実施の前に解決しなければならない問題が多々あるとしつつも、連邦政府はハッド刑に反対したことはないと述べた（NST, April 25, 2014）。

この首相発言をクランタン州副首相が歓迎するなど、PAS は UMNO の反応を好意的なものを受け止めた（Bernama, April 25, 2014）。ハディ総裁は、UMNO 指導者の反応をポジティブなものとして評価し、それがハッド刑施行の実現につながることを望むと述べて期待感を表

⁴ イスラーム法の解釈・適用に関し意見を述べる資格を認められた法学の権威者（嶋田 1982b : 373）。

明している (*Bernama*, April 19, 2014)。

実際、UMNO の反応は単なるリップサービスにとどまらなかった。4月27日にムヒディン副首相は、クランタンのモハマド・アマル州副首相に対し、PAS が連邦議会に関連法案を上程する前に両党で協議すること、ならびにハッド刑に関する連邦政府レベルの技術委員会を設置することを提案したと発表した (*Bernama*, April 27, 2014)。この委員会は、クランタン州のシャリーア法廷首席判事のダウド・モハマドを委員長として7月に発足し、ハッド刑に関する超党派の協議の場となる (*NST*, May 3, July 4, 17, 2014)。

UMNO 側が事前協議をもちかけたことを受け、5月11日にPAS のハディ総裁は、6月から始まる連邦議会での関連法案上程を見送った (*NST*, May 12, 2014)。

第2節 スランゴール州首相人事をめぐる PKR、DAP と PAS が対立(2014年8月～9月)

ハッド刑関連法の連邦議会への上程がいったん見送られたあとも、人民連盟加盟政党間の軋轢は緩和せず、むしろ悪化していく。その要因となったのは、スランゴール州首相人事をめぐる対立である。

2014年1月28日、PKRの実質的指導者であるアンワル・イブラヒムは、前日に同党所属スランゴール州議会議員リー・チンチェ (Lee Chin Cheh) が辞職したのを受けて、補欠選挙に立候補することを発表した。この出来事は、当初からアンワルがスランゴール州首相に就任するための布石とみられていた (*Star*, Jan 28-29, 2014)。現職のカリド・イブラヒム (Abdul Khalid Ibrahim) 州首相は、その行政手腕を市民から高く評価される一方⁵、水道事業の再公営化の政策決定にあたり党内合意の取りつけを怠ったことなどから党中央幹部の不興を買っていた。アンワルがスランゴール州首相就任をめざしたのは、党指導部の対立を解消するためだったと考えられている (伊賀 2015: 387)。

ところが、アンワルが実際に州議会の補欠選挙に出馬することはなかった。公示日を4日後に控えた3月7日に、同氏の異常性愛 (同性愛) 容疑を審理していた控訴裁判所が1審の無罪判決を覆して禁固5年の有罪判決を下したためである。アンワルの候補者としての法的適格性が疑われたこともあり、3月9日にはアンワルの妻であるワン・アジザ PKR 総裁の出馬が決まった (*Star Online*, March 7-9, 2014)。投票は同月23日に行われ、ワン・アジザが国民戦線の候補に大差で勝利した。

ハッド刑問題が収まった時期にあたる7月以降、カリド降ろしの動きが本格化する。7月21日に PKR 中央執行部は、カリド・イブラヒムを辞めさせワン・アジザをスランゴール州首相に就任させる旨を決定した。だがカリドは辞職を拒否する。そのカリドを支えたのが

⁵ PKR がカリドを除名し PAS が彼を支えていた時期 (後述) にスランゴール州で行われたある世論調査によれば、マレー人回答者の81%は PAS がカリドを支え続けることを望んでいた (*TMI*, September 4, 2014)。

PAS である。

そもそもワン・アジザを州首相に据えるための動きが遅れたのは、PAS のハディ総裁がカリド降ろしに強く反対していたためであった。DAP は早々にワン・アジザへの交代に同意していた。7月21日のPKR 決定を受けて、一時はPAS も州首相交代に合意したと報じられたが、ハディ総裁に近い幹部がこれを否定した (TMI, July 21, 2014; Star Online, July 21, 2014)。8月7日にはPAS の最高意思決定機関である宗教指導者会議 (Syura Council) が、カリドの続投を望むと発表した (TMI, August 7, 2014)。

8月9日にPKR は、党による辞職要求に応じないことへの説明がなかったことを理由にカリドを除名する。翌日、スランゴール州議会に15議席をもつDAP がPKR の決定を支持したため、人民連盟の44議員のうちPKR とDAP に所属する計28人の議員がカリドへの支持を取り下げたことになった。定数は56だから、カリドへの支持が半数を下回ったのは明白かと思われた。しかしカリドは、スルタンに対して過半数の支持を得ていると主張し、辞職を拒んだ。その背景には、12議席をもつUMNO が、不信任投票になったらカリドを支持する (8月11日のムヒディン副総裁発言) という立場をとっていたという事情があった (TMI, August 6-11, 2014)。

ただし、カリドの抵抗は長くは続かなかった。州議会のPAS所属議員15人のうち2人が、党からの除名を覚悟のうえでワン・アジザを支持⁶し、PKR、DAPの議員とあわせて30人が彼女に対する支持を書面で宣誓したためである (Star Online, August 14, 2014)。8月17日にPASは、ハディ総裁を議長とする中央執行部会合を開催し、カリドへの支持を取り下げて、ワン・アジザとアズミン・アリPKR副総裁の2人を州首相候補として推薦することを決めた (Star Online, August 17, 2014)。

このPAS 幹部会のあと、同日のうちに人民連盟の党首会議が開催される。その後の記者会見でアンワル・イブラヒムは、人民連盟がワン・アジザを州首相に推薦することで合意し、アズミン・アリは推薦を辞退したと発表した (Star Online, August 17, 2014)。ただし、この党首会議にはPAS のハディ総裁は出席せず、党内で「進歩派」の頭目とみられていたモハマド・サブ副総裁が代理出席していた。この、モハマド・サブを通じたPKR、DAP との「合意」はまもなく裏切られる。8月25日にPAS は再び中央幹部会合開催し、すでに支持表明した2人をのぞく13人の州議会議員にはワン・アジザ支持の宣誓をさせないこと、新たな州首相の決定は同州スルトンの英知にゆだねることを決めた (Star Online, August 25, 2014)。

その翌日、カリドが記者会見を開き、スルタンに謁見して辞意を伝えたところ後任が決まるまでの続投を要請されたこと、ならびにスルタンが人民連盟の3党に対し、それぞれ少なくとも3人の候補を推薦するよう求めたことをあきらかにした (TMI, August 26, 2014)。

⁶ のちに2人は1年間の党籍停止処分を受けた (TMI, October 12, 2014)。

通常は議会内多数派党派の推薦のとおり州首相に任命するスルタンが、人事に積極的に介入してきたのである。

そもそも PAS がアズミン・アリを推薦候補に加えた背景には、ワン・アジザだけを推薦することに対する党内の不満に加えて、スルタンの意向があった。7月31日にハディ総裁がスルタンに謁見した際、ワン・アジザは適任ではないと聞かされたためにアズミン・アリを加えたのだという。スルタンはワン・アジザを拒否するだろうとの声は、PKR の内部からもあがっていた (*Star Online, August 16, 19, 2014*)。ではなぜ、スルタンはワン・アジザを拒んだのか。スルタン自身がそれを公表することはなかったが、王宮に近い筋の話として、スルタンは「リモート・コントロールされる州首相」を望まなかったと報じられている (*Star Online, August 29, 2014*)。

スルタンの意向があきらかにされると、PAS は PKR のワン・アジザ、アズミン・アリに自党の議員を加えた3人を州首相候補として推薦した (*Star Online, September 4, 2014*)。一方、PKR と DAP はワン・アジザのみを推薦するという姿勢を崩さなかった。結局、最終的にスルタンを選んだのはアズミン・アリであった。9月22日にスルタンがアズミンに対して翌日付で州首相に任命する旨を通達すると、PKR は党として遺憾の意を表明したが、その日のうちに受け入れることを決めた (*Star Online September 22-23, 2014*)。

スランゴール州首相人事をめぐる一連の騒動は、(1) 人民連盟加盟政党間の関係、(2) UMNO と PAS の関係、(3) PAS 指導者間の関係、に大きな影響を及ぼした。

第1に、ハッド刑問題で生じた DAP、PKR と PAS との対立が一段と深まった。仮に PAS がワン・アジザのみを州首相候補として推薦していれば、彼女に対する支持は定数の4分の3以上に達していたため、スルタンの個人的な意向とはかかわりなくワン・アジザが州首相に就任していたはずだった。PAS のハディ総裁は、9月20日の党総会閉会演説で、この問題で PKR と DAP の振る舞いにただ従うわけにはいかない、PAS には両党とは異なる原則と信念があると述べた (*TMI, September 20, 2014*)。これは単にハディ個人の意向にとどまらない。PAS の若手指導者のなかには、PKR と DAP が決めたアジェンダに従うことへの不満があり、それが執行部に対する圧力になったという (*TMI, August 30, 2014*)。

第2に、スランゴール州政府の危機は UMNO と PAS が近づく機会となった。前述のとおり、PKR がカリド降ろしの動きを本格化させると、ムヒディン UMNO 副総裁がカリドを支持する方針を示す。その翌日、DAP の長老リム・キッシャンは、カリドを UMNO と PAS が連立して支える「統一政府」が実現する可能性に言及し、24時間以内に人民連盟の運命が決まると述べて警戒を促した (*Star Online, August 12, 2014*)。カリドと UMNO 議員、PAS 議員を合計すると28人で、定数のちょうど半分だったから、もし PKR か DAP から離反者が出たら UMNO と PAS の統一政府が実現するところだった。しかし、PKR と DAP が巻き返し、前述のとおり PAS 議員2人からワン・アジザ支持の宣誓を取りつけたため、統一政府実現の可能性は一気にしぼんだ。ウラマー評議会のスポークスマンは、2議員の離反が統

一政府計画を頓挫させたと認め、2 議員とかれらの行動を支持した一部の党中央幹部を非難した (TMI, September 3, 2014)。統一政府に批判的だった幹部のひとりであるフサム・ムサ元副総裁補は、多数派工作のために PKR 議員に接触したことをハディ総裁が認めたと、のちに公表にしている (TMI, November 6, 2014)。

第 3 に、人民連盟の枠組みを重視するか、UMNO とも協調しつつ独自路線をとるかをめぐって PAS の内部対立が深まった。人民連盟の枠組みを重視したのは、メディア上で「進歩派」と呼ばれたグループであり、その代表格は、ハディ総裁にかわって人民連盟の党首会議に出席し、ワン・アジザのみを推すことに「合意」したモハマド・サブ副総裁である。9 月 18 日から 20 日にかけて開催された党総会では、ハディ総裁が DAP・PKR との協調を乱しているとの批判が進歩派から出る一方、両党に妥協的なモハマド・サブへの批判が相次いだ。青年部総会では、モハマド・サブの演説中に退席して抗議の意志を示したグループもあった (TMI, September 17-20, 2014)。また党総会の前には、人民連盟の枠組みを重視する一部の下級幹部らが、「マレーシア福祉共同体協会」(Persatuan Ummah Sejahtera Malaysia: PasMa) なる党内組織を結成していた (TMI, September 3, 2014)。はっきりと表面化した PAS の内部対立が、のちに政党間関係のさらなる変化を促すことになる。

第 3 節 クランタン州でのハッド刑実施に向けた動きが加速(2014 年 12 月～2015 年 3 月)

スランゴール州首相人事が決着したあと、いったんは PAS の中央執行部と宗教指導者会議の双方が人民連盟にとどまることで合意する (TIM, November 9, 2014)。しかしその後も人民連盟加盟政党間の関係は好転せず、むしろ急速に悪化していく。2014 年の年末から年明けにかけては、ハッド刑と地方自治体選挙という二つの政策争点が PAS と DAP との論争の火種になった。

12 月 14 日にクランタン州首相のアフマド・ヤコブは、1993 年シャリーア刑法 II を改正するための特別州議会を同月 29 日に開催すると発表した。アフマドはこの法改正について、クランタン州でハッド刑を実施するための議員立法案を連邦議会に上程する手続きの一環だと説明した (TMI, December 14, 2014)。

この日は DAP が党総会を開催した日でもあり、同党はハッド刑実施に反対することを決議した。リム・ガンエン書記長は、人民連盟は次の総選挙で勝ってもハッド刑を実施しないと宣言すべきだと述べた (Bernama, December 14, 2014)。

その後は PAS と DAP のあいだで非難の応酬が続く。クランタンのモハマド・アマル州副首相は、ハッド刑を実施したら総選挙に勝てないと思うなら DAP は人民連盟を抜ければよいと述べ、宗教指導者会議ナンバー 2 のハロン・ディンは、DAP がハッド刑批判を続けるなら政治的連携は壊れると警告した (Bernama, December 15, 2014; TMI, December 22, 2014)。一方、DAP のリム・キッシャンは、PAS がハッド刑にこだわるなら人民連盟指導者評議会

の会合をボイコットすると述べ、ゴビンド・シンは、人民連盟は PAS との関係を停止すべきだと主張した (TMI, December 24, 2014)。

このころ、マレー半島の東岸部を中心に大雨が続いており、クランタン州では大規模な洪水が発生した。そのため同州政府は、12月29日に予定していた1993年シャリーア刑法II改正のための特別州議会を延期せざるを得ず、ハッド刑実施に向けた手続きはいったん止まった。

年が明けると、こんどは地方自治体選挙の是非が PAS と DAP の論争の対象になる。地方自治体選挙の実施を求める DAP の姿勢を PAS のハディ総裁らが批判したのである。

マレーシアでは、州の下の行政単位は郡と地方自治体に分かれている。地方自治体には、特別市 (Bandaraya / City)、市 (Perbandaran / Municipality) などがある。マレーシアの地方自治体はイギリスのカウンシル制度をモデルとしてつくられ、「議会が自治体という位置づけ」(齋藤 1998: 157) になっている。会社組織にたとえていえば、取締役会に相当するのが議会である。地方自治体の議会は地方評議会 (local council) と呼ばれる。地方評議会の評議員は、独立前後の時期には選挙で選ばれていたが、インドネシアとの紛争を理由に 1965 年に地方評議会選挙が停止される。その後、1976 年地方政府法の制定によって州政府による任命制になった。そのため、職能代表などの例外を除けば、地方評議会の評議員は州政府の政権党の党員で占められている。

DAP にとっては、地方評議会選挙の「復活」は 1970 年代当時からの悲願であった。都市部では華人住民の比率が高く、地方評議会選挙が実施されれば多くの議席を獲得できるからだ。2008 年総選挙の結果ペナン州に DAP 主導の州政権が誕生すると、同州議会は地方評議会選挙を実施するために 2012 年 5 月に「地方政府選挙 (ペナン島およびプロヴィンス・ウェルズレイ) 法」(Local Government Elections (Penang Island and Province Wellesley) Enactment 2012) を制定する。しかし、この州法は 1976 年地方政府法に抵触するとみなされ、選挙実施に不可欠な選挙委員会 (Election Commission) の協力を得られなかった。そこでペナン州政府は、司法の判断を仰ぐ。1976 年地方政府法は地方自治を州の管轄事項と定めた連邦憲法第 9 付則に抵触すると主張して、司法審査を求めたのである。だが DAP の期待に反して、連邦裁判所は 2014 年 8 月にペナン州政府の訴えを退けた (TMI, August 14, 2014)。

それでも、DAP は地方評議会選挙の導入をあきらめなかった。ペナンの州首相を務めるリム・ガンエン書記長は、8 月の連邦裁判決によってペナンでの選挙実施はむずかしくなると認める一方、ペナンと同じく人民連盟が州政権を握るスランゴールとクランタンではまだ可能性が残っていると主張した (Malay Mail Online, December 12, 2014)。

地方評議会選挙について PAS は、ハッド刑に反対されたことへの意趣返しであるかのように強く反発する。洪水のためにハッド刑問題が小休止となった 2015 年 1 月、PAS のムスタファ・アリ幹事長は、DAP が人民連盟で合意していないとの理由でハッド刑に反対しながら、同じく合意のない地方評議会選挙を実施しようとするのは傲慢だと批判した。さら

にはハディ総裁が、地方評議会選挙は都市と農村の格差を広げて5月13日暴動（1969年に発生した民族暴動）の再来を招きかねないと主張した（*Star Online*, January 20, 2014, *TMI*, January 23, 2014）。このハディ発言に対して、リム・ガンエン DAP 書記長が強く反発する一方、都市福祉・住宅・地方政府相のアブドゥル・ラーマン・ダーラン（Abdul Rahman Dahlan. UMNO 所属）は賛意を示した（*TMI*, January 24-25, 2015）。

人民連盟加盟3党は2月8日に党首会議を開催し、ハッド刑と地方評議会選挙については日を改めて協議することで合意する。だがその一方で、この日クランタン州首相は、3月の州議会で1993年シャリーア刑法Ⅱの改正をめざすと発表した。翌日リム・ガンエンは、地方評議会選挙に関する意思決定は人民連盟で協議が行われるまで中止すると述べ、PASにもハッド刑で同様の対応をとるよう求めて事態の沈静化を試みた（*TMI*, February 8-9, 2015）。

ところがその直後に、人民連盟を支えてきた二人の人物が政治の表舞台から退くことになる。ひとりにはPKRの実質的指導者のアンワル・イブラヒムである。2月10日に連邦裁判所が前年3月の控訴裁判所判決を支持し、禁固5年の刑が確定してアンワルは収監されてしまった。もうひとりには、PASの宗教指導者会議を統率する「精神的指導者」のニック・アジズである。ニック・アジズは長らく体調を崩しており、2月12日に死去した（享年84）。ニック・アジズは党の内外から尊敬された宗教指導者である一方、政治的にはUMNOとの連携に強く反対してきた。ゆえに近年は、UMNOとの連携に傾くウラマーと人民連盟を重視するグループとの結節点になっていた。

ニック・アジズが死去した日にDAPのリム・キッシャンは、ハッド刑と地方評議会選挙について2023年まで議論を先送りすべきだと主張した。3年後に実施される見込みの次回総選挙にまずは勝利し、連邦政府の政権を1期まっとうするまでは政策の違いを棚上げしようという提案であった。だが、PASはこの提案に同意しなかった。

3月18日、クランタン州政府が州議会上に1993年シャリーア刑法Ⅱの改正法案を上程した。この日はまた、下院議員であるPASのハディ総裁が、連邦議会事務局に対して、4月9日までの会期中に1965年シャリーア裁判所（刑事裁判権）法（*Shariah Courts (Criminal Jurisdiction) Act 1965*）改正法案の上程を希望する旨を申告した。この連邦法は、シャリーア裁判所が下すことができる刑罰の上限を禁固3年、むち打ち6回、罰金5000リングおよびこれらの組み合わせと定めたもので、クランタン州でハッド刑を実施するには改正する必要がある（*TMI*, February 10, March 18, 23, 2014）。

この日に至るまで、連邦政府とクランタン州政府のハッド刑に関する技術委員会は合同で準備を進めてきた。一部の報道によれば、もともとの計画では、1965年シャリーア裁判所（刑事裁判権）法の改正案は、各州スルタンと州知事が構成する統治者会議の同意を取りつけたうえで、政府法案として連邦議会上に上程するはずであった。ところが3月11日に開催された統治者会議で法改正への支持が得られず、政府法案としての提出ができなくな

ったため、ハディが議員立法としての法案提出を申告することになったという（*TMI*, March 25, 2014）。この報道の翌日、統治者会議側がクランタン州でのハッド刑実施に関して協議はしていないとの声明を発表していることから（*Bernama*, March 26, 2014）、法案を統治者会議の事前審査にかける手続きがあったとされる点には疑いが残る。しかし、連邦政府の技術委員会がクランタン州政府と連携してハッド刑実施に向けた準備を進めてきたとの報道への異論は出ておらず、連邦政府がクランタン州でのハッド刑実施に向けた作業に荷担していたのは間違いない。

3月19日にクランタン州議会は、1993年シャリーア刑法IIの改正案を全会一致で可決した。PAS所属議員だけでなく、PKR所属議員（1人）と、ここでは野党のUMNO議員も、ハッド刑実施にむけた新たな一歩となる法案に賛成したのである。UMNOの州組織を率いるムスタパはこの日、クランタンの議員は連邦議会でもハッド刑関連法案に賛成すると述べた。UMNOではほかに、アフマド・シャベリ・チーク通信・マルチメディア大臣（Ahmad Shabery Cheek）が連邦議会でもハッド関連法を支持すべきだと述べたのに加え、国民戦線バックベンチャーズ・クラブ⁷の会長をつとめるシャフリル・サマド（Shahrir Samad）が、PASが提出する見込みの法案については党議拘束にかけず、ムスリム議員が良心に従って賛否を表明できるようにすべきだと述べた（*TMI*, March 18-19, 2015）。これに対して非マレー人が主体のグラカンは、1993年シャリーア刑法IIは憲法に抵触するとしてコタバル高裁に違憲審査を求めた⁸。しかし、連邦議会が会期末を理由にハディが申請した法案の審議入りを見送ったこともあり、ハッド刑に関する立場の違いが国民戦線加盟政党間の厳しい対立に発展することはなかった。

一方、人民連盟の側は、PASがハッド刑実施に向けた手続きを開始したことによって決定的な局面を迎えた。DAPは3月24日に中央執行委員会の緊急会合を開き、PASのハディ総裁と断交することを決定した。その前日にリム・ガンエン書記長は、ハディ個人をターゲットとして批判し、人民連盟をひとりで出て行くべきだと主張していた。DAPは、PASの内部で力関係に変化が生じ、人民連盟の枠組みを重視する一派が主導権を握る可能性に一縷の望みをつないだのかもしれない。だとすれば、その期待は裏切られることになる。

第4節 人民連盟の解体、PASの分裂、希望連盟の結成（2015年6月～9月）

クランタン州議会在が1993年シャリーア刑法IIを改正したとき、PASでは6月の中央役員選挙に向けた前哨戦が始まっていた。各地域（*kawasan / division*）の大会で候補者を推薦する手続きが進められていたのに加え、モハマド・サブ副総裁がハディ総裁の追い落としを

⁷ 国民戦線バックベンチャーズ・クラブ（Barisan Nasional Back Benchers' Club）は、非閣僚議員の院内組織である。

⁸ コタバル高裁は、のちにこの違憲審査請求を棄却している（*TMI*, May 5, 2015）。

画策している証拠とされる音源がネット上にアップされたり、PasMa とリム・ガンエンが共謀してハディ降ろしを企んでいるとの噂が流されたりするなど、暗闘が繰り広げられた (TMI, February 23, March 4, 2014)。3月28日にはウラマーで副総裁補のトゥアン・イブラヒム・トゥアン・マン (Tuan Ibrahim Tuan Man) が副総裁選挙で現職のモハマド・サブに挑戦する意思を表明した。総裁選挙は単一候補 (現職ないし代行) が無投票で信任されるのが慣例となっていたが、今回は挑戦者が現れた。ハディ総裁に挑戦したのは、過去に副総裁補を務めた経験をもつベテランのアフマド・アワン (Ahmad Awang) である。アフマドは、スランゴール州首相の交代をめぐり、ハディ総裁とウラマー評議会の独断専行を批判していた (Star Online, April 27, May 14, 2014)。

党総会開幕の日の前日にあたる6月3日、ウラマー評議会は役員選挙の推薦候補者リストを配布した。ウラマー評議会がこのように露骨なやり方で役員選挙に影響力を行使するのは前例のないことである。さらに同評議会は、この日行われた総会でDAPとの断交を求める緊急動議を採択した。

翌日、総裁 (1)、副総裁 (1)、副総裁補 (3)、執行委員 (18) の座をめぐる中央執行委員会選挙が実施された。当選者は、執行委員1人を除き、すべてウラマー評議会が推薦した候補であった。モハマド・サブら人民連盟を重視する「進歩派」幹部は文字通り完敗した。

その2日後、新たに選出された中央執行委員会と宗教指導者会議はDAPとの断交を求めるウラマー評議会の動議を支持することを決め、党総会で採択した。この党総会決議により、事実上、PASとDAPの協調関係に終止符が打たれた。その日のうちにペナン州首相のリム・ガンエンは、PASに所属する州執政評議会メンバーに辞表を書くよう迫った (TMI, June 6, 2015)。

このあと、PASの幹部からDAPとの断交は最終決定ではないとの趣旨の発言が相次いだ。DAPはこれを受け入れなかった。6月15日の会議でDAP中央執行委員会は、同党との断交を決めたPAS総会決議を受け入れることを決めた。その後の記者会見でリム・ガンエン書記長は、人民連盟は消滅したと宣言した。この流れを受けて、当初は対立する2党をとりなそうとしたPKRもDAPに追従し、ワン・アジザ総裁が人民連盟は死んだと述べるに至った (TMI, June 16-17, 2015)。その翌日、PASのハディ総裁が人民連盟はまだ死んでいないと強弁したが、これは野党連合解体の責任が自らにあるわけではないと主張するためのポーズと考えられる。7月11日にPASの宗教指導者会議が改めてDAPとの断交を認め、人民連盟は完全に終焉した。

役員選挙の勝者がDAPとの断交を選んだのに対し、敗れた「進歩派」幹部18人は、6月16日に会合を開き、新たな政治運動を立ち上げることを決める。G18と呼ばれたかれらの

動きは、当初から新党設立を視野に入れたものであった⁹。かれらはまず、7月13日に「ニューホープ運動」(Gerakan Harapan Baru: GHP)なる組織を立ち上げる。暫定運営委員会の委員長に就任したモハマド・サブは、結成式後の記者会見で、イスラームにもとづく新政党を立ち上げると言明した。その1週間後、GHBの運営委員に加わった下院議員カリド・サマド(Khalid Samad)が、9月16日のマレーシア・デイ¹⁰に新党結成の見込みであることをあきらかにする。カリドは、党総会での断交決議から新党結成予定日までの100日を、PASの現執行部がDAPとの関係を再考するための猶予期間とすると述べた(TMI, June 17, July 13, 20, 2015)。

G18は人民連盟を重視する立場のため、新党の旗揚げは新たな野党連合の結成とセットで構想されていた。7月5日の時点でDAPのリム・ガンエンは、人民連盟に替わる政党連合は経済問題に専念すべきだと語っており、新連合の設立時期について、しかるべき時期にモハマド・サブが発表するだろうと述べていた。(TMI, July 5, 2015)。

G18が新党設立に向けた行動を取り始めると、PAS執行部はかれらをDAPの傀儡と見なして非難した。ハディ総裁は、DAPを保護者として仰ぐなど党員に警告し、GHBに従って党を去る者が出ていることについては、異分子の離党はむしろ歓迎すると述べた(TMI, July 23, August 13, 2015)。

9月16日、予定通り新党が設立された。党名は国民信託党(Parti Amanah Negara)で、略称はアマナ(Amanah)である¹¹。アマナは休眠組織だったマレーシア労働者党を改名改組したもので、10月2日に結社登録官から正式な承認を受けた。PASの下院議員21人のうち、6人が新党へ移籍している¹²。党中央に逆らってワン・アジザを支持したスランゴール州議会議員2名もアマナに移籍したため、PASの分裂がスランゴール州政府の危機に直結することはなかった。

ただし、末端党員数は少ない。PASの党員数は、2015年3月時点で100万人に達していた。対してアマナの党員数は、結党時は3万人で年内に10万人に増員するのが目標とされた(TMI, March 15, September 16, 2015)。PASが宗教を紐帯とする大衆政党であるのに対

⁹ ただし、マフズ・オマール(Mahfuz Omar)とフサム・ムサ(Husam Musa)の2人(どちらも副総裁選挙に立候補して落選)はPASに残った。また、カマルディン・ジャファール(Kamarudin Jaafar)はのちにPKRに移籍した(注12参照)。

¹⁰ マレーシアは、1963年9月16日にサバ、サラワクとシンガポールがマラヤ連邦に加わって結成された。これを祝して9月16日は「マレーシア・デイ」と呼ばれ、記念式典が行われる。

¹¹ この名は、インドネシアのイスラーム政党である国民信託党(Partai Amanat Nasional: PAN)に酷似している。アマナのアヌアル・タヒル(Anuar Tahir)幹事長は、PANと党名が似ているのは偶然であり、PANをまねるのではなく、マレーシアの進歩的イスラーム政党に必要とされる独自のモデルを追求すると述べている(theantdaily, September 3, 2015)。

¹² 当初はPASの7議員が新党に参加する見込みだったが、そのうちのひとりであるカマルディン・ジャファールは新党ではなくPKRに加わった(TMI, August 31, September 11, 2015)。したがって、分裂によってPASの下院議員は21人から14人に減った。

し、現時点のアマナは幹部政党の性格が強い。

アマナの旗揚げからまもない9月22日、DAPとPKR、アマナの3党は新たな政党連合・希望連盟（Pakatan Harapan）を結成した。結果的に、人民連盟の解体からわずか3カ月あまりで野党連合が再生されたことになる。希望連盟は2016年1月9日に第1回大会を開催し、行動規範を採択した。これは、「合意しないことに合意する」という緩やかな連合のあり方が人民連盟の崩壊を招いたことへの反省からとられた措置である。採択された行動規範は、(1) 合意にもとづく決定、(2) 政治統合の促進、(3) 制度を通じた紛争解決、(4) 選挙における統一候補の擁立、(5) 憲法に則った共通政策の策定、(6) 合意による首相、州首相の選出、(7) 政党連合としての地位の保全、の7点である（TMI, January 10, 2016）。

希望連盟は、実質的に人民連盟からPASのウラマー指導者とその支持者を排除したものであり、連合内におけるDAPのプレゼンスが際立つことになった¹³。下院の保有議席数は、DAPが37、PKRが29、アマナが6で、過半数がDAPの議席である。議員の民族構成をみると、ブミプトラ25人に対してノン・ブミプトラは47人で、ノン・ブミプトラがほぼ3分の2を占める。2013年総選挙を経てブミプトラ議員が9割近くを占めるようになった国民戦線とは対照的である。

モハマド・サブらが新党旗揚げ、野党連合の再生へと動いていた時期、PASのハディ総裁らはライバルであるはずのナジブ首相に接近していった。UMNOもまた深刻な内紛を抱えており、首相の側にもPASに近づく動機があった。

ナジブ首相は、2009年に自らのイニシアティブで設立した国営投資会社ワン・マレーシア開発（1MDB）の巨額負債、ならびに同社と子会社を舞台とする汚職疑惑により、2014年4月頃から批判を浴びてきた。とくに、同年9月にマハティール元首相が1MDBの経営状況に疑念を呈すると注目度が高まり、不透明な資金運用に関する疑惑が詳しく報道されるようになる。年末にはUMNOの内部から1MDBの経営者を警察に告発する者が現れ、2015年3月にはムヒディン副首相が1MDBへの公的資金注入に反対するなど、この問題をめぐって党内、閣内に軋轢が生じた。

2015年7月には、「ウォールストリート・ジャーナル」の報道により、ナジブ首相の個人口座に7億ドル近い現金が送金されていたというスキャンダルが発覚する。さらには、この金の出所は国庫であり、1MDB・子会社と取引企業による資金洗浄を経て首相の手に渡ったのではないかと疑念が浮上した。ナジブ首相は、この問題で自身の意向に反する言動を行う者はすべからず更迭するという措置をとり、7月28日にはムヒディン副首相の解任

¹³ マレーシア社会主義者党（Parti Sosialis Malaysia: PSM）の希望連盟加盟は見送られた。これにより、希望連盟はPSM所属の下院議員（1名）を失ったことになる。この議員、マイケル・ジャヤクマール・デヴァラジ（Michael Jeyakumar Devaraj）は、選挙にはPKR所属候補として出馬していた。また元スランゴール州首相のカリド・イブラヒムは下院議員でもあり、PKRから除名されたによって無所属議員になった。

を含む内閣改造を断行した（中村 2015a, b, c）。

PAS の幹部は、窮地の首相を側面から支援した。ニック・アジズの死去後に「精神的指導者」に就任したハロン・ディンは、先の「ウォールストリート・ジャーナル」報道を「非論理的」と評し、その信憑性に疑念を呈した（*UM*, July 5, 2015）。内閣改造後にはハディ総裁が、新内閣が責務を果たせるかまづは様子を見ようと呼びかけ、首相がこれに感謝するという一幕もあった（*BH*, July 28, 2015; *TMI*, July 31, 2015）。のちに DAP と PKR、GHB の議員が国民戦線に対してナジブ抜きで連立政権結成を呼びかけたのとは対照的である（*TMI*, August 27, 2015）。

10 月に連邦議会の会期が始まると、希望連盟の議員は「26 億リンギ（7 億ドル）はどこへ？」というプラカードを掲げたが、PAS はこれに加わらなかった。さらに、実質的な内閣不信任の措置として希望連盟が 2016 年度予算案の否決をめざしたのに対し、PAS は党としてはこの動きに加わらず、予算案に反対したのは 14 人の下院議員のうち 3 人だけだった。

こうした PAS の態度に首相は感謝し、12 月の UMNO 党総会開会演説で、PAS に対して「完璧なマレーシア」をつくりあげるための関係強化を呼びかけた。（*TMI*, December 10, 2015）。2016 年 2 月にはザヒド・ハミディ（Ahmad Zahid Hamidi）副首相によって、連邦政府に対する諮問機関であるイスラーム諮問評議会（Majlis Perundingan Islam）のダアワ（教導・布教）部門の長にハロン・ディンが任命されている（*Sinar Online*, February 13, 2015）。

おわりに

ここまでみてきたように、2013 年総選挙後に生じた政策志向の相違の表面化（ハッド刑問題）と政党間の主導権争い（スランゴール州首相人事）の結果、人民連盟が解体した。その過程で PAS の内紛が深刻化し、中央役員選挙に敗れた進歩派指導者による新党結成に至る。新党アマナと DAP、PKR によって野党連合が再生されたが、それは政党としては DAP、民族的にはノン・ブミプトラの議員のプレゼンスが際立つものへと変質した。一方、進歩派が去った PAS は、ナジブ首相のスキャンダルにより内紛を抱える UMNO に接近した。

政党システムがこのように変質するなかで、エスノナショナリズムが再び政治の主要な対立軸になりつつある。11 月にスランゴール州在住の 1700 人あまりのマレー人を対象としたある世論調査によれば、DAP は華人の利益だけを追求する政党だと考える回答者が 72%、DAP はアンチ・マレー、アンチ・イスラームの政党だと考える回答者も 64% にのぼったという（*TMI*, January 7, 2015）。DAP 指導部のなかには都市部・準都市部のマレー人票の取り込みをめざすべきだという声もあるが¹⁴、悪化したイメージを改善するのは容易でないだろう。

¹⁴ ジョホール DAP 代表のリユウ・チントン（Liew Chin Tong）の発言（*TMI*, June 7, 2015）。

政治の再民族化とでもいうべき事態が目に見えるかたちで現れたのが、2015年8月29日から30日にかけて行われたブルシ（Bersih）主催のデモと、それへのカウンターとしてマレーシア・デイに行われた「赤シャツ」デモである。選挙改革を求める市民社会組織のブルシは、野党と連携しつつ民族の垣根を越えて多くの市民をデモに動員してきた（本報告書第4章参照）。ところが、4回目にあたる今回の大規模デモは、PASが参加しなかったためにマレー人の参加者が少なく、華人・インド人のプレゼンスが目立った。一方、希望連盟の旗揚げの日にUMNO地方幹部らが主催した「赤シャツ」デモは、マレー民族主義の示威行動であった。

人民連盟解体の大きな要因となったハッド刑問題はいま沈静化しているが、PASは実施をあきらめたわけではない。クランタン州副首相でハッド刑技術委員会委員長のモハマド・アマルによれば、いまは1965年シャリーア裁判所（刑事裁判権）法の改正について、統治者会議の同意を待っている状況だという（TMI, March 1, 2016）。法改正にスルタンが同意して法案が提出されれば、政党間関係にさらなる変化が生じる可能性が高い。

今回の中間報告では、2013年総選挙後の人民連盟加盟3党間の関係の変化を時系列に沿って整理した。最終報告では、国民戦線との関係を視野に収めたうえで、政党システムの変化を生み出してきた要因を検討する予定である。

<参考文献>

[邦語文献]

- 伊賀司 2015. 「2014年のマレーシア——保守的なイスラームの拡大と航空機事故」『アジア動向年報 2015』アジア経済研究所.
- 齋藤友之 1998. 「マレーシア」森田朗編『アジアの地方制度』東京大学出版会, pp. 139-166.
- 嶋田襄平 1982a. 「ハッド」日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『イスラム事典』平凡社, pp. 300-301.
- , 1982b. 「ムフティー」日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『イスラム事典』平凡社, p. 373.
- 遠峰四郎 1982. 「刑罰」日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『イスラム事典』平凡社, pp. 167-168.
- 中村正志 2015a. 「ナジブ首相の7億ドル受領疑惑とマレーシアの政治危機（1）」(http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Asia/Radar/201507_nakamura_1.html).
- , 2015b. 「ナジブ首相の7億ドル受領疑惑とマレーシアの政治危機（2）」(http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Asia/Radar/201507_nakamura_2.html).
- , 2015c. 「ナジブ首相の7億ドル受領疑惑とマレーシアの政治危機（3）」(http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Asia/Radar/201508_nakamura_1.html).

[英語文献]

ECM (Election Commission Malaysia). 2002. *Report of the General Election Malaysia 1999*. Kuala Lumpur: Percetakan Nasional Malaysia Berhad.

-----, 2006. *Report of the General Election Malaysia 2004*. Kuala Lumpur: Percetakan Nasional Malaysia Berhad.

-----, 2009. *Report of the 12th General Elections 2008*. Kuala Lumpur: Percetakan Nasional Malaysia Berhad.

[新聞, インターネットメディア等]

Berta Harian (BH)

Malay Mail Online

New Straits Times (NST)

Sinar Online

theantdaily

The Malaysian Insider (TMI)

The Star (Star)

The Star Online (Star Online)

Utusan Malaysia (UM)